

育児と高齢者介護を支援する性別役割分業を超えた社会的システムの形成
 (第5報) 不規則・長時間就労女性の育児支援について

○榎並英子*浅田幸子*磯部美津子**大倉聖子*³佐渡君江*⁴永原朗子*⁵
 原田寛子*⁴吉見泰江*⁶山本真一*⁷渡辺廣二*⁸
 (*ノートルダム清心女大**島根県立女短大*³中国短大*⁴四国大*⁵山口大
 *⁶就実短大*⁷島根大*⁸鳴門教育大)

目的 本報では、勤務時間が不規則や長時間など、勤務形態が定時以外の就労女性の育児支援の現状を実態調査を通して把握することにより、女性が安心して働き続けられる環境づくりについて考える。

方法 第3、第4報に同じ

結果 本調査では、毎日の勤務時間が定まっている人にも残業、夜勤、早朝勤務のいずれかある人が25%もあり、特に残業は8割近い。長時間就労者はフルタイム勤務が9割を占め職種は教員、公務員、医療関係が多い。仕事観は「どちらかといえば仕事優先」に考える人の割合が他の就労形態より高い。仕事と子育ての両立に必要なこととしては、乳児や延長保育など「多様な保育」をあげた人が半数を越え、また「夫の家事分担」「配偶者以外の家族の協力」が他の就労形態の場合よりかなり高い。一方、「夫の理解」は長時間就労の場合が最も低いのは、両立するために生活を変えた中で、「夫の家事分担」が他の就労形態の場合より高いことから、既に夫の理解や協力がある結果であろう。住居を変えた人の中で、妻の実家に移った人が7割近くを占めており、女性が家庭と仕事を両立するには多くの支援体制の充実が望まれる。